

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成22年6月14日

【四半期会計期間】 第1期第1四半期
(自平成22年2月1日 至平成22年4月30日)

【会社名】 C H I グループ株式会社

【英訳名】 CHI Group Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小城 武彦

【本店の所在の場所】 東京都新宿区市谷左内町31番地2

【電話番号】 03 - 5225 - 8787

【事務連絡者氏名】 執行役員経理・財務部長 森 孝司

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区市谷左内町31番地2

【電話番号】 03 - 5225 - 8787

【事務連絡者氏名】 執行役員経理・財務部長 森 孝司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

| 回次 | | 第1期 当第1四半期連結 累計(会計)期間 |
|----------------------------|-------|-------------------------------------|
| 会計期間 | | 自 平成22年 2月1日 至 平成22年 4月30日 |
| 売上高 | (百万円) | 39,873 |
| 経常利益 | (百万円) | 1,534 |
| 四半期純利益 | (百万円) | 827 |
| 純資産額 | (百万円) | 28,199 |
| 総資産額 | (百万円) | 77,453 |
| 1株当たり純資産額 | (円) | 457.44 |
| 1株当たり 四半期純利益 | (円) | 13.76 |
| 潜在株式調整後 1株当たり四半期 純利益 | (円) | |
| 自己資本比率 | (%) | 35.5 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー | (百万円) | 9,127 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | (百万円) | 569 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | (百万円) | 5,570 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末残高 | (百万円) | 16,332 |
| 従業員数 | (人) | 1,134 |

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

4 当社は平成22年2月1日設立のため、前連結会計年度以前については記載しておりません。

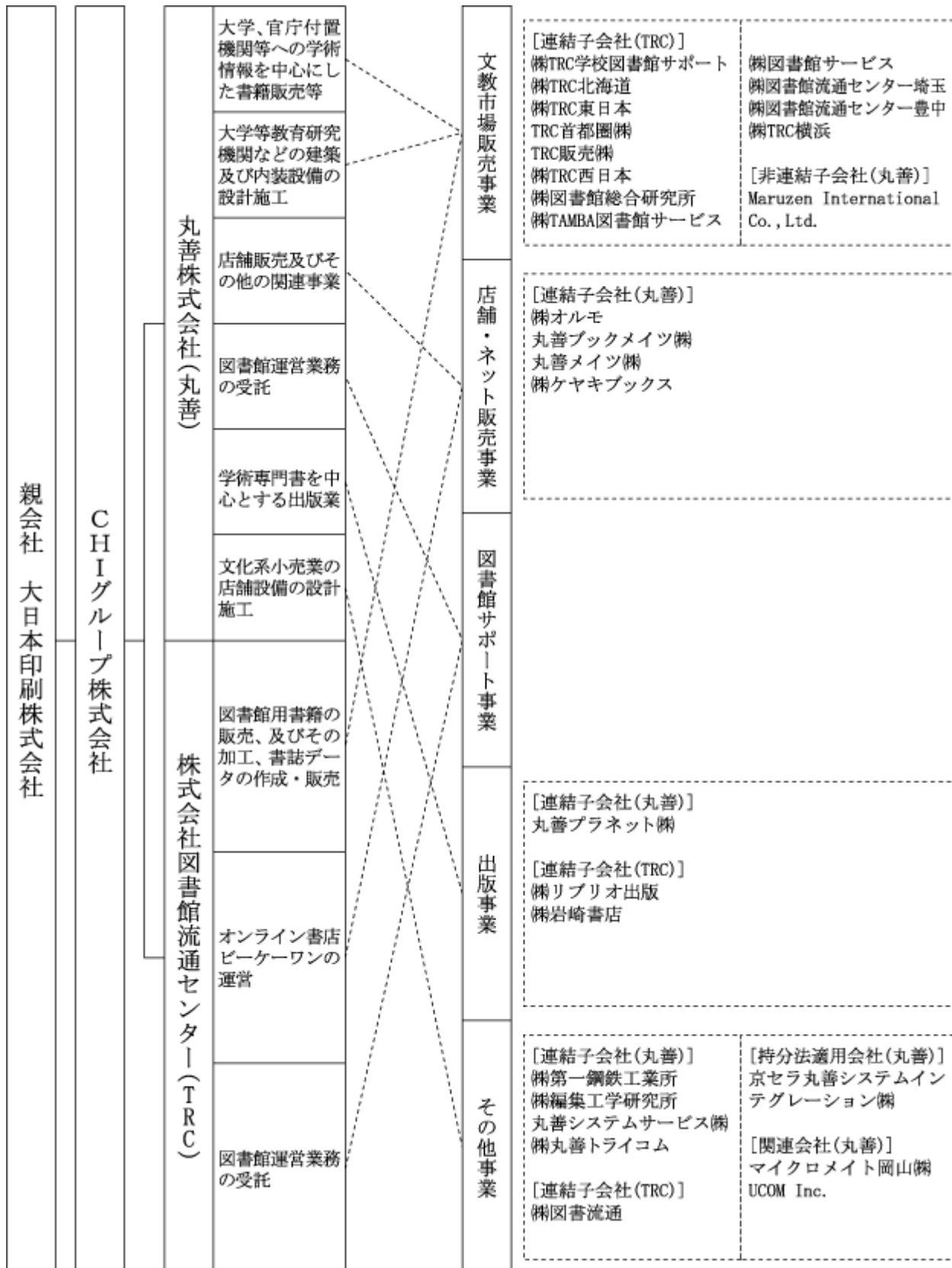
2 【事業の内容】

当社は、平成22年2月1日に丸善株式会社と株式会社図書館流通センターの共同株式移転により、両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。当社グループは、当社（純粋持株会社）、子会社27社、関連会社3社により構成されており、事業は文教市場販売事業、店舗・ネット販売事業、図書館サポート事業、出版事業及びその他事業を営んでおります。なお、親会社である大日本印刷株式会社は印刷事業及び清涼飲料事業を事業内容としております。

事業内容と関係会社の当該事業に係る位置づけ及び事業の種類別セグメントとの関連は以下の通りであります。

| 事業区分 | 主要な事業内容 | 主要な会社名 |
|------------|---|---------------------------------------|
| 文教市場販売事業 | 大学、官庁付置研究機関、企業資料室、公共図書館等への学術情報を中心にした書籍販売等 | 丸善(株)、Maruzen International Co., Ltd. |
| | 大学等教育研究機関、国公行政機関等の図書館・教室などの建築及び内装設備の設計施工 | 丸善(株) |
| | 公共図書館、学校図書館を中心とした図書館用書籍の販売、および図書館用書籍の加工（装備）、書誌データの作成・販売 | (株)図書館流通センター |
| 店舗・ネット販売事業 | 主要都市に店舗を設け、書籍のほか文具等の複合的な店舗販売及びその関連事業 | 丸善(株) |
| | 主にロードショップで書籍のほか文具、文化雑貨等の複合的な販売及びA V製品等のレンタル | (株)オルモ |
| | オンライン書店ピーケーワンの運営 | (株)図書館流通センター |
| 図書館サポート事業 | 公共図書館、大学図書館を中心とした図書館運営業務の受託、指定管理者制度による図書館運営 | 丸善(株)、(株)図書館流通センター |
| 出版事業 | 学術専門書中心の出版業 | 丸善(株) |
| | 児童図書及び図書館向け図書の出版業 | (株)岩崎書店、(株)リブリオ出版 |
| | 出版に係る企画、編集、製作等の請負 | 丸善ブラネット(株) |
| その他事業 | 書店・文具店など文化系小売業の店舗設備の設計施工 | 丸善(株) |
| | 書籍の入出荷業務等 | (株)図書流通 |

事業の系統図は次のとおりであります。



3 【関係会社の状況】

当社は平成22年2月1日に丸善株式会社と株式会社図書館流通センターが経営統合し、両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。四半期報告書は、当第1四半期連結会計期間から作成しておりますので、当第1四半期連結会計期間末における主要な関係会社を記載しております。

| 名称 | 住所 | 資本金又は出資金 (百万円) | 主要な事業の内容 | 議決権の所有又は被所有割合(%) | 関係内容 |
|-------------------------|---------|-------------------|--|------------------|--------------------------------|
| (親会社) 大日本印刷(株)(注3) | 東京都新宿区 | 114,464 | 印刷事業及び清涼飲料事業 | 被所有 52.2 | 事務所の賃借 役員の受入 6名 |
| (連結子会社) 丸善(株)(注3, 4) | 東京都中央区 | 5,821 | 文教市場販売事業、店舗・ネット販売事業、図書館サポート事業、出版事業、その他事業 | 100.0 | 経営指導契約を締結 資金の貸付 役員の兼任 7名 |
| (株)図書館流通センター (注4) | 東京都文京区 | 266 | 文教市場販売事業、店舗・ネット販売事業、図書館サポート事業 | 100.0 | 経営指導契約を締結 資金の借入 役員の兼任 6名 |
| 丸善システムサービス(株) (注5) | 東京都品川区 | 30 | その他事業 | 100.0 (100.0) | |
| 丸善ブックメイツ(株)(注5) | 東京都品川区 | 30 | 店舗・ネット販売事業 | 100.0 (100.0) | |
| 丸善メイツ(株) | 東京都品川区 | 12 | 店舗・ネット販売事業 | 100.0 (100.0) | |
| (株)ケヤキボックス | 宮城県名取市 | 10 | 店舗・ネット販売事業 | 100.0 (100.0) | 役員の兼任 1名 |
| (株)オルモ | 宮城県名取市 | 10 | 店舗・ネット販売事業 | 100.0 (100.0) | 役員の兼任 1名 |
| (株)第一鋼鉄工業所 | 神奈川県大和市 | 29 | その他事業 | 100.0 (100.0) | |
| (株)丸善トライコム(注5) | 東京都品川区 | 20 | その他事業 | 100.0 (100.0) | |
| 丸善プラネット(株) | 東京都品川区 | 20 | 出版事業 | 100.0 (100.0) | |
| (株)編集工学研究所 | 東京都港区 | 75 | その他事業 | 51.2 (51.2) | 役員の兼任 2名 |
| (株)TRC北海道 | 札幌市白石区 | 10 | 文教市場販売事業 | 100.0 (100.0) | 役員の兼任 1名 |
| (株)TRC東日本 | 東京都文京区 | 10 | 文教市場販売事業 | 100.0 (100.0) | |
| TRC販売(株) | 東京都文京区 | 10 | 文教市場販売事業 | 100.0 (100.0) | |
| TRC首都圏(株) | 東京都文京区 | 10 | 文教市場販売事業 | 100.0 (100.0) | |
| (株)TRC西日本 | 東京都文京区 | 10 | 文教市場販売事業 | 100.0 (100.0) | |
| (株)図書館総合研究所 | 東京都文京区 | 10 | 文教市場販売事業 | 100.0 (100.0) | |
| (株)TRC学校図書館サポート | 東京都文京区 | 10 | 文教市場販売事業 | 100.0 (100.0) | |
| (株)TRC横浜 | 横浜市西区 | 10 | 文教市場販売事業 | 100.0 (100.0) | |
| (株)TAMBA図書館サービス | 東京都八王子市 | 10 | 文教市場販売事業 | 95.0 (95.0) | 役員の兼任 1名 |
| (株)図書館サービス | 福岡県久留米市 | 10 | 文教市場販売事業 | 100.0 (100.0) | 役員の兼任 1名 |

| 名称 | 住所 | 資本金又は 出資金 (百万円) | 主要な事業 の内容 | 議決権の所有 又は被所有 割合(%) | 関係内容 |
|--|----------|-----------------------|-------------------|--------------------------|----------|
| (株)図書流通 | 埼玉県新座市 | 10 | その他事業 | 59.9 (59.9) | |
| (株)図書館流通センター埼玉 | さいたま市大宮区 | 15 | 文教市場販売 事業 | 100.0 (100.0) | |
| (株)図書館流通センター豊中 | 大阪府豊中市 | 20 | 文教市場販売 事業 | 98.5 (98.5) | 役員の兼任 1名 |
| (株)リブリオ出版 | 東京都文京区 | 20 | 出版事業 | 100.0 (100.0) | 役員の兼任 2名 |
| (株)岩崎書店 | 東京都文京区 | 30 | 出版事業 | 52.9 (52.9) | |
| (持分法適用関連会社) 京セラ丸善システムインテグ レーション(株) | 東京都港区 | 380 | I T ビジネス 事業の請負 | 27.3 (27.3) | 役員の兼任 1名 |

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、連結子会社については事業の種類別セグメントの名称を記載しております。
2 「議決権の所有又は被所有割合」欄の(内書)は間接所有であります。
3 有価証券報告書の提出会社であります。
4 特定子会社であります。
5 債務超過会社であり、債務超過の金額は、平成22年4月末時点で丸善システムサービス(株)は10,620百万円、平成22年3月末時点で丸善ブックメイツ(株)は5,401百万円、(株)丸善トライコムは1,770百万円であります。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年4月30日現在

| | |
|---------|---------------|
| 従業員数(人) | 1,134 (6,452) |
|---------|---------------|

- (注) 従業員数は就業人員(当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む)であり、臨時雇用者数は()内に当第1四半期連結会計期間の平均雇用人員を外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成22年4月30日現在

| | |
|---------|--------|
| 従業員数(人) | 33 () |
|---------|--------|

- (注) 従業員数は就業人員(当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む)であり、臨時雇用者数は()内に当第1四半期連結会計期間の平均雇用人員を外数で記載しております。

第 2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

当社は、当第 1 四半期連結会計期間より、設立第 1 期として初めて四半期報告書を作成しているため、前年同四半期比較についての記載を行っておりません。

(1) 生産実績

当社は、一部受注生産を行っておりますが、売上原価に占める生産実績割合の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(2) 受注実績

当社は、一部受注生産を行っておりますが、販売実績に占める受注販売実績割合の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(3) 販売実績

当第 1 四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| 事業の種類別セグメントの名称 | 販売高(百万円) |
|----------------|----------|
| 文教市場販売事業 | 25,388 |
| 店舗・ネット販売事業 | 9,302 |
| 図書館サポート事業 | 2,735 |
| 出版事業 | 1,171 |
| その他事業 | 1,274 |
| 合計 | 39,873 |

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 主要な販売先については、総販売実績に対する販売割合が10%以上の相手先がないため記載を省略しております。
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当社は平成22年 2 月 1 日に丸善株式会社と株式会社図書館流通センターが経営統合し、両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。四半期報告書は、当第 1 四半期連結会計期間から作成しておりますので、当社グループ（当社及び連結子会社）の経営成績及び財政状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクについて、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項を記載しております。

当社グループの事業活動及び業績は、今後起こり得るさまざまな要因により、大きな影響を受ける可能性があります。従って、当社グループはこれらのリスクの発生を認識した上で、その影響を最小限に低減していくように努めてまいります。

なお、文中における将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 官公庁及び大学等の予算動向及び消費動向等

当社グループは、主に官公庁が運営する公共図書館・学校図書館市場及び大学を柱とする教育・学術市場への書籍の販売、書誌データの作成・販売、図書館運営業務の受託を行っており、官公庁または大学の予算動向に影響を受けております。特に官公庁の予算は政府及び地方自治体の政策によって決定され、同様に大学の予算は文部科学省等の基本政策あるいは各種補助支援政策に影響を受けて決定されるため、今後、官公庁または大学の予算が削減された場合、想定以上の受注競争の激化によって当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

また店舗・ネット販売事業においては、ITを活用したきめ細かな商品政策と業務の効率化を推進して収益の拡大を図ってまいりますが、気候や景気の状態、競合他社の出店状況等による消費動向の変化によって収益に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 為替の変動

当社グループが取り扱う輸入書籍及び外国雑誌は、為替変動に連動した販売価格を設定しております。輸入書籍は一定期間の為替相場をもとに、また、外国雑誌は年度契約が基本であり、年度ごとに為替相場を反映するように設定しております。一方、仕入では円建て取引を行うほか、為替予約を実行し、販売価格に対応した為替予約を行うことで過度に為替変動の影響を受けないことを基本としております。しかし、完全に為替リスクを排除することは困難であり、短期間に急激な為替変動が起こった場合には収益への影響を受ける懸念があります。

(3) 法的規制等

再販売価格維持制度について

当社グループにて製作または販売している出版物は、「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」（以下「独占禁止法」といいます。）第23条第4項の規定により、再販売価格維持制度（以下「再販制度」といいます。）が認められる特定品目に該当しており、書店では定価販売が認められております。

独占禁止法は、再販制度を不公正な取引方法として原則禁止しておりますが、出版物が我が国の文化の振興と普及に重要な役割を果たしていることから、公正取引委員会の指定する書籍、雑誌及び新聞等の著作物の小売価格については、例外的に再販制度が認められています。

公正取引委員会が、平成13年3月23日に発表した「著作物再販制度の取扱いについて」によると、著作物再販制度については、当面、残置されることは相当であるとの結論が出されております。しかし併せて、業界に対し、再販制度を維持しながらも、消費者利益の向上が図られるように現行制度の弾力的運用を要請しています。従いまして、今後、再販制度が廃止された場合、あるいは今後拡大が想定される電子書籍の新しい動向によっては、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

出店に関する法的規制について

当社グループの店舗事業においては、売場面積1,000㎡超の店舗（以下「大規模小売店舗」といいます。）を出店する場合、「大規模小売店舗立地法」の規制を受けます。大規模小売店舗の出店については出店調整等の規制の影響を受ける可能性があるため、当該規制によって出店計画に変更が発生した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

出版物の委託販売制度について

当社グループにおける出版事業では、書籍業界の商慣習に従い、当社グループが取次または書店に配

本した出版物（主として書籍・雑誌）のほとんどについては、配本後、約定した委託期間内に限り、返品を受け入れることを取引条件とした委託販売制度をとっております。

書籍の委託には、主として次の2種類があります。

）新刊委託

新刊時または重版時の書籍が対象となり、書籍取次店との委託期間は6ヶ月間であり、

）長期委託

既刊の書籍をテーマあるいは季節に合わせてセット組みしたもの、あるいは全集物が対象となり、委託期間は、ケース・バイ・ケースであります、12ヶ月になることもあります。

定期刊誌（雑誌）の委託期間は、次のとおりです。

月刊誌 発売日より3ヶ月間

当社グループは、委託販売制度による出版物の返品による損失に備えるため、会計上、出版事業に係る売掛金残高または出版物の売上金額に一定期間の返品実績率を乗じた返品調整引当金を計上しておりますが、返品率の変動は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 情報セキュリティ及び個人情報保護

コンピュータネットワークや情報システムの果たす役割が高まり、情報セキュリティ及び個人情報保護に関する対応は、事業活動を継続する上で不可欠となっており、これに対して、近年ソフト・ハードの不具合やコンピュータウイルスなどによる情報システムの障害、個人情報の漏えいなど、さまざまなリスクが発生する可能性が高まってきております。

当社グループは、情報セキュリティ及び個人情報保護を経営の最重要課題の1つとして捉え、体制の強化や社員教育などを通じてシステムとデータの保守・管理に万全を尽くしておりますが、万一これらの事故が発生した場合には、信用失墜による収益の減少、損害賠償等による予期せぬ費用が発生し、事業活動に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 災害の発生

店舗・物流を含む事業拠点の主要施設には防火、耐震対策などを実施しており、災害などによって事業活動の停止あるいは商品供給に混乱をきたすことのないよう努めております。また、将来予測される大規模地震等の自然災害に備え、コンピュータシステム及び通信設備等の重要機器は耐震構造と自家発電設備を備えたビルに収容し、データのバックアップ等の対策も講じております。さらに各種保険によるリスク移転も図っております。しかしながら、大地震や新型インフルエンザ等の感染症の流行など、事業活動の停止及び社会インフラの大規模な損壊や機能低下などにつながるような、予想を超える事態が発生した場合は、当社グループの事業活動の復旧及び業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営上の重要な契約等】

当社は、平成22年4月28日付で、連結子会社である丸善株式会社、株式会社図書館流通センターそれぞれとの間で両社の経営全般に関する助言・指導等を行うための、平成22年2月1日を効力発生日とする「経営指導契約書」を締結しております。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、設立第1期として初めて四半期報告書を作成しているため、前年同四半期比較についての記載を行っておりません。

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結会計期間（平成22年2月1日～平成22年4月30日）のわが国経済は、企業収益については一部の業種で改善の兆しがみられるものの、雇用状況の悪化から生活防衛意識は引き続き高く、デフレの進行と相まって個人消費は依然として厳しい状況で推移しました。特に、出版・書店業界におきましては、平成21年の出版物の推定販売額が2兆円を割り込み、5年連続で減少するなど当社を取り巻く事業環境は年々厳しさを増しております。

このような状況のなかで、当社は「知は社会の礎である」という価値観を共有し、教育・学術機関、図書館、出版業界等と連携し、最良な知の生成・流通と知的な環境づくりにおいて、革新的な仕組みを創出、提供することにより、業界の活性化をリードし、日本の社会に貢献する企業集団となることを目指して、平成22年2月1日付けで、丸善株式会社と株式会社図書館流通センターの共同株式移転により、両社を完全子会社として新たにスタートいたしました。

当第1四半期連結会計期間につきましては、親会社である大日本印刷株式会社との協業が順調に推移したほか、売上原価の改善や経費の削減に取り組んだ結果、売上高は398億73百万円、営業利益は15億92百万円、経常利益は15億34百万円となりました。また、子会社の本社移転費用や店舗撤退損を特別損失に計上し、さらに、法人税等調整額5億11百万円を計上したことなどから、四半期純利益は8億27百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

[文教市場販売事業]

当事業は当社グループの中核をなす事業で以下の事業を行っております。

- 1．大学などの教育研究機関や研究者に対して学術研究及び教育に関する出版物（書籍・雑誌・電子ジャーナルほか）や英文校正・翻訳サービスをはじめとする研究者支援ソリューションの提供
- 2．図書館（公共図書館・学校図書館・大学図書館）に対して図書館用書籍の販売、汎用書誌データベース「TRC MARC」の作成・販売及び図書装備（バーコードラベルやICタグ等の貼付等）や選書・検索ツール等の提供
- 3．教育・研究施設、図書館などの設計・施工と大学経営コンサルティングをはじめとする各種ソリューションの提供
- 4．大学内売店の運営や学生に対して教科書・テキストの販売等

当第1四半期連結会計期間の業績につきましては、特に図書館向けの書籍販売や大学入学シーズンでの教科書販売が計画を上回って推移したことなどから、売上高は253億88百万円、営業利益は20億8百万円となりました。

[店舗・ネット販売事業]

当事業は、主に全国都市部を中心とした店舗網において和書・洋書などの書籍から文具・雑貨・洋品まで多岐にわたる商品の販売を行うほか、オンライン書店「ピーケーワン」において書籍や音楽・映画ソフトの販売を行っております。

当第1四半期連結会計期間の業績につきましては、3月に「中部国際空港店」「エキュート立川店」を閉店しましたが、4月に文具専門店の「アトレ吉祥寺店」と株式会社ジュンク堂書店とのコラボレーションによる文具専門店「鹿児島マルヤガーデンズ店」を開店いたしました。その結果、売上高は93億2百万円、営業損失は61百万円となりました。

[図書館サポート事業]

当事業は、図書館の業務効率化・利用者へのサービス向上の観点から、カウンター業務・目録作成・蔵書点検などの業務の請負、地方自治法における指定管理者制度による図書館運営業務、P F I (Private Finance Initiative) による図書館運営業務及び人材派遣をおこなっております。

当第1四半期連結会計期間の業績につきましては、図書館受託館数が期初から61館増加し4月末で517館となり順調に推移いたしました。この結果、売上高は27億35百万円、営業利益は2億8百万円となりました。

[出版事業]

当事業は、「理科年表」をはじめとする理工系分野を中心とした専門書・事典・便覧・大学テキストに加え絵本・童話などの児童書、図書館向け書籍の刊行を行っております。また医療・看護・芸術・経営など多岐にわたる分野のビデオ・DVDについても発売を行っております。

当第1四半期連結会計期間につきましては、理工系分野として『オリンピック問題で学ぶ 世界水準の物理入門』『トトラ 人体の構造と機能 第3版』『現代建築家20人が語る いま、建築にできること』『水ビジネスの現状と展望』、児童書として『しずくちゃんシリーズ』『なんでも魔女商会』『ほんやのいぬくん』など、合計新刊65点を刊行いたしました。

また委託出版の『道路土工 カルバート工指針』を刊行したことなどから売上高は11億71百万円、営業利益は1億8百万円となりました。

[その他事業]

当事業は、書店やその他小売店舗を中心に企画・設計デザインから建設工事・内装工事・店舗什器・看板・ディスプレイなどのトータルプランニングを手がけております。また、図書館用図書の入出荷業務等を行っております。

当第1四半期連結会計期間の業績につきましては、景気回復の兆しがあるものの依然として店舗内装事業を取り巻く環境は厳しく、売上高は12億74百万円、営業利益は1億35百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

資産

当第1四半期連結会計期間末の総資産の残高は774億53百万円となりました。うち流動資産は553億63百万円、固定資産は220億90百万円であります。

流動資産の主な内容としたしましては、現金及び預金168億66百万円、受取手形及び売掛金196億57百万円、商品及び製品168億46百万円であります。

固定資産の主な内容としたしましては、有形固定資産112億42百万円、無形固定資産38億36百万円、投資その他の資産70億11百万円であります。

負債

当第1四半期連結会計期間末の負債の残高は492億53百万円となりました。うち流動負債は428億75百万円、固定負債は63億78百万円であります。

流動負債の主な内容としたしましては、支払手形及び買掛金231億56百万円、短期借入金130億5百万円であります。

固定負債の主な内容としたしましては、長期借入金10億14百万円、退職給付引当金40億2百万円であります。

純資産

当第1四半期連結会計期間末の純資産の残高は281億99百万円となりました。なお、自己資本比率は35.5%、1株当たり純資産額は457.44円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は163億32百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により獲得した資金は、91億27百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上、たな卸資産の減少および仕入債務の増加によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、5億69百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出、無形固定資産の取得による支出によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は、55億70百万円となりました。これは主に、短期借入金の減少によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社は、丸善株式会社と株式会社図書館流通センターの2社において共同株式移転の方法により共同持株会社として平成22年2月1日に設立、同時に東京証券取引所市場第一部に新規上場（コード3159）してスタートいたしました。今後、当社は大日本印刷株式会社グループの一員として教育・出版流通事業分野においてリーダーシップを発揮し、丸善株式会社、株式会社図書館流通センター及び大日本印刷株式会社が保有する営業力、システム・ITに関するノウハウ、物流機能、ブランド力等の経営資源を共有化し、幅広い事業領域において経営統合シナジーを発揮し、当社グループの業容と事業収益の拡大を図ってまいります。また、当社と株式会社ジュンク堂書店は、平成21年9月29日付「経営統合に関する合意書」に基づき、当社設立3年内を目途とする株式会社ジュンク堂書店の当社グループへの経営統合を目指して、引き続き協議を進めております。

文教市場販売事業においては、株式会社図書館流通センターが公共図書館向けの書籍販売事業において実績を有する新刊書籍のカタログ販売や受発注システム等の仕組みを丸善株式会社が大学図書館向け書籍販売において採用していく等により、顧客利便性の向上と営業体制の効率化を図ります。また、丸善株式会社における基幹システムの継続的改修の過程で業務プロセスを抜本的に見直し、業務効率を高め、組織による事業運営と販売予測の精度を高め、返品率を低下させる仕組みを構築するなどの施策を通じ、事業収益率の改善を図ります。さらに、蔵書の整備・装備や点検・再配架、書誌データの遡及入力等の付帯業務のインフラにおいて、株式会社図書館流通センターの書誌データベース「TRC MARC」を基盤とした高度なノウハウを採用することで事業の効率化を推進してまいります。

店舗・ネット販売事業においては、店舗における発注体制の見直し等により適正な在庫を確保しつつ、什器や店舗レイアウトを工夫することでお客様への訴求力を高め、書籍の返品率低下と売上向上を同時に追求する新しい店舗モデルの構築に取り組んでまいります。併せて、丸善株式会社、株式会社ジュンク堂書店及び大日本印刷株式会社の3社間で平成21年9月29日に締結した「業務提携に関する契約書」に基づき、各社が有する店舗運営力、システム・ITに関するノウハウ、物流機能、ブランド力、技術力等の経営ノウハウを共有化し、また、3社協働で新規サービス等の新業態、新企画の開発を行なうこと等の業務提携を進めてまいります。

図書館サポート事業においては、丸善株式会社が得意とする大学図書館市場と株式会社図書館流通センターが得意とする公共図書館市場において、さらに日本における確固たるマーケットシェアを確立していくため、大日本印刷株式会社が有するeラーニングのノウハウ及び株式会社図書館流通センターが主催するライブラリー・アカデミー等を活用した図書館スタッフの教育・研修制度を共通化していくことを通じて、当該事業の効率化とコスト削減を図ってまいります。

当社は、当社グループの価値観『知は社会の礎である』とグループビジョン『知の生成と流通に革新をもたらす企業集団となる』という経営理念を具現化していく上でも、大日本印刷株式会社と密接に連携し、世界的な潮流を迎えている電子書籍への対応についても積極的に取り組み、新しいビジネスモデルの構築に努めて日本の社会に貢献してまいります。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

提出会社

該当事項はありません。

国内子会社

平成22年4月30日現在

| 会社名 | 事業所名 (所在地) | 事業の種類 別セグメン トの名称 | 設備の内容 | 帳簿価額(百万円) | | | | 従業員数 (人) |
|------------------|--------------------------|------------------------|-------------------|-------------|--------------|---------------------|-------|-------------|
| | | | | 建物及び 構築物 | 工具器具 及び備品 | 土地 (面積㎡) | 合計 | |
| (株)図書館流 通センター | 志木ブックナ リー (埼玉県志木市) | 文教市場販 売事業 | 倉庫 加工設備 事務所 | 745 | 3 | 1,793 (5,684.27) | 2,542 | 49 (77) |
| | 新座ブックナ リー (埼玉県新座市) | 文教市場販 売事業 | 倉庫 加工設備 | 1,873 | 4 | 1,859 (8,145.00) | 3,737 | () |

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 「従業員数」欄の()は、臨時従業員数を外書しております。
3 上記の他、連結会社以外からの主要な賃借資産の内容は、下記のとおりであります。

| 名称 | 事業の種類別セ グメントの名称 | リース期間 | 年間支払リース料 (百万円) | リース契約残高 (百万円) |
|----------------------------|--------------------|--------|-------------------|------------------|
| 店舗建物及び構築物 (オペレーティングリース) | 店舗・ ネット販売事業 | 10～20年 | 1,228 | 11,472 |
| 事務所建物 (オペレーティングリース) | 全社 | 5～16年 | 483 | 275 |

(2) 設備の新設、除却等の計画

重要な設備の新設等

| 会社名 | 事業所名 (所在地) | 事業の種類 別セグメン トの名称 | 設備の内容 | 投資予定額 | | 資金調達方法 | 着手年月 | 完了予定 | 完成後の 増加能力 |
|-------|--------------------|------------------------|--------------------|-------------|---------------|--------|--------------|-------------|--------------|
| | | | | 総額 (百万円) | 既支払額 (百万円) | | | | |
| 丸善(株) | 本社 (東京都 中央区) | 文教市場 販売事業 | 業務改善 システム ほか | 3,919 | 2,329 | 増資資金 | 平成21年 12月 | 平成23年 1月 | |
| | | 全社 | 業務改善 システム ほか | 353 | 353 | 増資資金 | 平成20年 10月 | 平成23年 1月 | |

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 完成後の増加能力については合理的な算定が困難なため記載しておりません。

重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 240,000,000 |
| 計 | 240,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成22年4月30日) | 提出日現在 発行数(株) (平成22年6月14日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|--|---------------------------------|------------------------------------|------------|
| 普通株式 | 60,128,085 | 60,128,085 | 東京証券取引所 市場第一部 | 単元株式数 100株 |
| 計 | 60,128,085 | 60,128,085 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (千株) | 発行済株式 総数残高 (千株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|-----------|------------------------|-----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 平成22年2月1日 | 60,128 | 60,128 | 3,000 | 3,000 | 3,000 | 3,000 |

(注) 会社設立によるものであります。

(6) 【大株主の状況】

当社は平成22年2月1日に設立された会社であり、当第1四半期会計期間中の基準日がなく株主を把握できないため記載しておりません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、平成22年2月1日会社設立により直前の基準日がないため記載しておりません。

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

| 月別 | 平成22年 2月 | 3月 | 4月 |
|-------|-------------|-----|-----|
| 最高(円) | 610 | 378 | 440 |
| 最低(円) | 350 | 346 | 351 |

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員状況】

本四半期報告書提出日現在における当社役員状況は次のとおりであります。

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有 株式数 (千株) |
|----------------|---------|---------|--------------|---|------|-------------------|
| 代表取締役 会 長 | | 石 井 昭 | 昭和8年8月7日生 | 昭和36年12月 株式会社学校図書サービス（現株式会社図書館流通センター）設立、代表取締役社長就任 昭和54年12月 株式会社図書館流通センター代表取締役専務 平成5年7月 同社代表取締役社長 平成12年6月 同社代表取締役社長退任 平成15年2月 同社取締役 平成15年4月 同社代表取締役会長（現任） 平成22年2月 丸善株式会社取締役（現任） 平成22年2月 当社代表取締役会長（現任） | (注)2 | 2,761 |
| 代表取締役 副 会 長 | | 西 村 達 也 | 昭和23年11月29日生 | 昭和46年3月 大日本印刷株式会社入社 平成13年4月 同社東北事業部長 平成13年6月 同社取締役東北事業部長 平成17年6月 同社常務取締役市谷事業部長、東北地区担当 平成20年5月 同社常務取締役IPS事業部担当 平成21年6月 同社常務役員教育・出版流通ソリューション本部担当（現任） 平成22年2月 当社代表取締役副会長（現任） 平成22年2月 株式会社図書館流通センター取締役（現任） 平成22年2月 丸善株式会社取締役（現任） | (注)2 | |
| 代表取締役 社 長 | 最高経営責任者 | 小 城 武 彦 | 昭和36年8月8日生 | 昭和59年4月 通商産業省（現 経済産業省）入省 平成9年7月 カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社入社 平成11年6月 同社取締役 平成12年5月 株式会社ツタヤオンライン代表取締役社長 平成13年6月 カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社常務取締役 平成14年6月 同社代表取締役常務 平成16年7月 株式会社産業再生機構マネージングディレクター 平成16年11月 カネボウ株式会社代表執行役社長 平成18年1月 同社代表執行役社長退任 平成18年6月 株式会社産業再生機構退社 平成19年1月 丸善株式会社顧問 平成19年4月 同社代表取締役社長 平成19年8月 同社代表取締役社長兼店舗事業部長 平成20年8月 同社代表取締役社長 平成21年2月 同社代表取締役社長兼教育・学術事業本部長（現任） 平成22年2月 当社代表取締役社長兼最高経営責任者（現任） 平成22年2月 株式会社図書館流通センター取締役（現任） | (注)2 | 19 |

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|-----|----|--------|--------------|---|-------|---------------|
| 取締役 | | 小澤 嘉 謹 | 昭和15年10月17日生 | 昭和37年 4月 株式会社学校図書サービス（現株式会社図書館流通センター）入社 昭和38年 2月 同社取締役 昭和47年12月 同社代表取締役専務 平成 3年 9月 株式会社図書館流通センター取締役 平成 5年 7月 同社専務取締役 平成12年 6月 同社代表取締役会長 平成15年 4月 同社代表取締役会長辞任 平成16年 6月 同社代表取締役 平成22年 2月 丸善株式会社取締役（現任） 平成22年 2月 当社取締役（現任） 平成22年 4月 株式会社図書館流通センター顧問（現任） | (注) 2 | 1 |
| 取締役 | | 土方 裕 之 | 昭和30年12月22日生 | 昭和54年 4月 丸善株式会社入社 平成10年 4月 同社学術情報ナビゲーション事業部商品本部企画開発センター営業推進部長兼同営業推進第一グループ長 平成12年 7月 同社学術情報ナビゲーション事業部商品本部企画開発部長兼同プロモーショングループ長 平成13年 6月 同社学術情報ナビゲーション事業部商品本部副本部長兼同企画開発部長 平成15年 7月 同社社長室副室長 平成17年 7月 同社社長室長 平成18年 3月 同社社長室長兼 C F T 推進室長 平成18年 4月 同社取締役兼上席執行役員社長室長兼 C F T 推進室長 平成19年 4月 同社取締役経営企画本部長 平成20年 4月 同社常務取締役経営企画本部長 平成21年 2月 同社常務取締役経営企画本部長兼教育・学術事業本部商品センター管掌 平成21年 8月 同社常務取締役経営企画本部長兼教育・学術事業本部学術情報ソリューション事業部商品センター管掌 平成22年 2月 同社常務取締役経営企画本部長兼教育・学術事業本部副事業本部長兼学術情報ソリューション事業部商品センター管掌 平成22年 2月 当社取締役（現任） 平成22年 2月 株式会社図書館流通センター取締役（現任） 平成22年 4月 丸善株式会社常務取締役新規事業開発室・経営企画室・I T 企画室・人事労務担当兼教育・学術事業本部副事業本部長兼学術情報ソリューション事業部商品センター管掌（現任） | (注) 2 | 2 |
| 取締役 | | 松尾 英 介 | 昭和28年 7月30日生 | 昭和51年 4月 大日本印刷株式会社入社 平成 4年12月 同社市谷事業部企画管理部長 平成 8年12月 同社包装事業部企画管理部長 平成11年 4月 同社管理部 平成17年 7月 同社事業企画推進室長 平成20年 4月 丸善株式会社常務取締役管理本部長兼教育・学術事業本部副事業本部長 平成22年 2月 同社常務取締役管理本部長兼教育・学術事業本部副事業本部長兼ショップ・システム・プロデュース事業部管掌 平成22年 2月 当社取締役（現任） 平成22年 4月 丸善株式会社常務取締役経理・財務部担当兼教育・学術事業本部副事業本部長兼ショップ・システム・プロデュース事業部管掌（現任） | (注) 2 | 1 |

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|-------|----|-------|-------------|---|---|------|---------------|
| 常勤監査役 | | 栗林 忠道 | 昭和18年11月8日生 | 昭和43年3月 平成6年6月 平成6年12月 平成10年6月 平成13年2月 平成13年3月 平成18年3月 平成20年5月 平成20年6月 平成22年2月 | 大日本印刷株式会社入社 同社経理本部経理第2部長 大日本印刷アカウンティングシステム株式会社取締役 大日本印刷株式会社監査部 北海道コカ・コーラボトリング株式会社顧問 同社取締役経理部長 株式会社DNPアカウンティングサービス取締役 同社顧問 株式会社図書館流通センター監査役(現任) 当社常勤監査役(現任) | (注)3 | 0 |
| 監査役 | | 古谷 滋海 | 昭和25年9月10日生 | 昭和48年4月 平成14年6月 平成16年4月 平成16年10月 平成18年6月 平成19年5月 平成20年4月 平成21年5月 平成22年2月 平成22年2月 | 大日本印刷株式会社入社 株式会社DNPオフセット社長 大日本印刷株式会社関連事業部長 同社管理部長 同社役員(コーポレート・オフィサー)管理部長 同社役員(コーポレート・オフィサー)管理部長兼関連事業部担当 丸善株式会社取締役 大日本印刷株式会社役員管理部長兼関連事業部担当(現任) 丸善株式会社監査役(現任) 当社監査役(現任) | (注)3 | |
| 監査役 | | 峯村 隆二 | 昭和27年8月22日生 | 昭和55年4月 平成13年12月 平成19年6月 平成21年5月 平成22年2月 | 大日本印刷株式会社入社 同社法務部長 同社役員(コーポレート・オフィサー)法務部長 同社役員法務部長(現任) 当社監査役(現任) | (注)3 | |
| 監査役 | | 橋本 博文 | 昭和32年7月8日生 | 昭和56年4月 平成9年1月 平成13年6月 平成14年4月 平成18年4月 平成19年4月 平成19年10月 平成20年4月 平成20年6月 平成21年11月 平成22年2月 平成22年2月 | 大日本印刷株式会社入社 PT DNP Indonesia 大日本印刷株式会社関連事業部 同社商印事業部企画管理部長 同社D A C本部長 同社商印事業部D A C事業推進本部長 同社商印事業部ソリューションサポート本部副本部長 同社事業企画推進室副室長 株式会社図書館流通センター取締役 大日本印刷株式会社事業企画推進室長(現任) 当社監査役(現任) 株式会社図書館流通センター監査役(現任) | (注)3 | |
| 計 | | | | | | | 2,785 |

(注) 1 監査役 栗林 忠道氏、古谷 滋海氏、峯村 隆二氏及び橋本 博文氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

2 取締役の任期は、平成22年2月1日から平成23年1月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

3 監査役の任期は、平成22年2月1日から平成26年1月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

4 当社では、取締役会の活性化のため、執行役員制度を導入しております。各執行役員は下記のとおりであります。

執行役員 中川 清 貴
執行役員 高橋 健一郎
執行役員 森 孝 司
執行役員 林 直 樹
執行役員 渡辺 太郎
執行役員 服部 達也

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。
- (2) 当四半期報告書は、設立第1期として最初に提出するものであるため、前年同四半期との対比は行っておりません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成22年2月1日から平成22年4月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成22年2月1日から平成22年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、明治監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

当第1四半期連結会計期間末
(平成22年4月30日)

| | |
|---------------|-------------|
| 資産の部 | |
| 流動資産 | |
| 現金及び預金 | 3 16,866 |
| 受取手形及び売掛金 | 19,657 |
| 商品及び製品 | 16,846 |
| 仕掛品 | 640 |
| 原材料及び貯蔵品 | 90 |
| その他 | 1,665 |
| 貸倒引当金 | 405 |
| 流動資産合計 | 55,363 |
| 固定資産 | |
| 有形固定資産 | 1, 3 11,242 |
| 無形固定資産 | 3,836 |
| 投資その他の資産 | |
| 投資有価証券 | 2,085 |
| 敷金及び保証金 | 3,900 |
| その他 | 3,699 |
| 貸倒引当金 | 2,673 |
| 投資その他の資産合計 | 7,011 |
| 固定資産合計 | 22,090 |
| 資産合計 | 77,453 |
| 負債の部 | |
| 流動負債 | |
| 支払手形及び買掛金 | 23,156 |
| 短期借入金 | 2, 3 13,005 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 3 370 |
| 未払法人税等 | 160 |
| 賞与引当金 | 224 |
| 返品調整引当金 | 361 |
| ポイント引当金 | 323 |
| その他 | 5,273 |
| 流動負債合計 | 42,875 |
| 固定負債 | |
| 長期借入金 | 3 1,014 |
| 退職給付引当金 | 4,002 |
| その他 | 1,360 |
| 固定負債合計 | 6,378 |
| 負債合計 | 49,253 |

(単位：百万円)

当第1四半期連結会計期間末
(平成22年4月30日)

| | |
|--------------|--------|
| 純資産の部 | |
| 株主資本 | |
| 資本金 | 3,000 |
| 資本剰余金 | 8,482 |
| 利益剰余金 | 16,519 |
| 自己株式 | 0 |
| 株主資本合計 | 28,002 |
| 評価・換算差額等 | |
| その他有価証券評価差額金 | 497 |
| 評価・換算差額等合計 | 497 |
| 少数株主持分 | 694 |
| 純資産合計 | 28,199 |
| 負債純資産合計 | 77,453 |

(2)【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 当第1四半期連結累計期間 (自平成22年2月1日 至平成22年4月30日) |
|--------------|---|
| 売上高 | 39,873 |
| 売上原価 | 31,258 |
| 売上総利益 | 8,614 |
| 販売費及び一般管理費 | ¹ 7,021 |
| 営業利益 | 1,592 |
| 営業外収益 | |
| 持分法による投資利益 | 53 |
| 不動産賃貸料 | 95 |
| その他 | 31 |
| 営業外収益合計 | 181 |
| 営業外費用 | |
| 支払利息 | 51 |
| 不動産賃貸費用 | 61 |
| その他 | 126 |
| 営業外費用合計 | 240 |
| 経常利益 | 1,534 |
| 特別利益 | |
| 貸倒引当金戻入額 | 4 |
| その他 | 0 |
| 特別利益合計 | 4 |
| 特別損失 | |
| 固定資産除却損 | 20 |
| 店舗閉鎖損失 | 32 |
| 本社移転費用 | 33 |
| その他 | 0 |
| 特別損失合計 | 87 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,451 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 87 |
| 法人税等調整額 | 511 |
| 法人税等合計 | 598 |
| 少数株主利益 | 25 |
| 四半期純利益 | 827 |

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

| 当第1四半期連結累計期間 (自平成22年2月1日 至平成22年4月30日) | |
|---|----------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,451 |
| 減価償却費 | 223 |
| 売上債権の増減額（は増加） | 107 |
| たな卸資産の増減額（は増加） | 1,816 |
| 仕入債務の増減額（は減少） | 5,220 |
| その他 | 452 |
| 小計 | 9,272 |
| 利息及び配当金の受取額 | 1 |
| 利息の支払額 | 54 |
| 法人税等の支払額 | 93 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 9,127 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | |
| 有形固定資産の取得による支出 | 211 |
| 無形固定資産の取得による支出 | 498 |
| 敷金及び保証金の差入による支出 | 186 |
| 敷金及び保証金の回収による収入 | 385 |
| その他 | 58 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 569 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 短期借入金の純増減額（は減少） | 5,501 |
| 長期借入れによる収入 | 100 |
| 長期借入金の返済による支出 | 125 |
| その他 | 43 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 5,570 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | - |
| 現金及び現金同等物の増減額（は減少） | 2,986 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 13,345 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 1 16,332 |

【継続企業の前提に関する事項】

当第1四半期連結会計期間(自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日)

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当社は平成22年2月1日に丸善株式会社と株式会社図書館流通センターが経営統合し両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。四半期連結財務諸表は、当第1四半期連結会計期間から作成しておりますので、「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等」を記載しております。

四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等

| 項目 | 当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日) |
|------------------------|---|
| 1 連結の範囲に関する事項 | <p>連結子会社 26社 連結子会社名については、「第1 企業の概況」の「3 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。</p> <p>非連結子会社Maruzen International Co.,Ltd.の総資産、売上高、利益額及び利益剰余金のうち持分に見合う額等の合計額は、連結会社の総資産、売上高、利益額及び利益剰余金等の合計額に対していずれも僅少であり、且つ全体としても連結財務諸表に重要な影響を与えていないため連結の範囲から除外しております。</p> |
| 2 持分法の適用に関する事項 | <p>持分法適用会社 1社 持分法適用会社名については、「第1 企業の概況」の「3 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。</p> <p>非連結子会社Maruzen International Co.,Ltd.及び関連会社マイクロメイト岡山(株)他1社の利益額及び利益剰余金のうち持分に見合う額等の合計額は、連結会社の利益額及び利益剰余金等の合計額に対して、いずれも僅少であり、且つ全体としても重要性に乏しいため持分法を適用しておりません。</p> |
| 3 連結子会社の四半期連結決算日に関する事項 | <p>連結子会社のうち、丸善ブックメイツ(株)、丸善メイツ(株)、(株)丸善トライコム及び(株)岩崎書店の決算日は12月31日であります。</p> <p>上記の会社については、四半期連結財務諸表の作成にあたっては3月31日現在の財務諸表をそのまま用いており、四半期連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。また、(株)編集工学研究所の決算日は3月31日ではありますが、3月末日において当第1四半期連結累計期間の仮決算を行っております。</p> <p>持分法適用関連会社である京セラ丸善システムインテグレーション(株)は決算日が3月31日ではありますが、当社の四半期連結決算日における仮決算を行っております。</p> |
| 4 会計処理基準に関する事項 | <p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>有価証券 その他有価証券 (時価のあるもの) 四半期連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算出)を採用しております。</p> <p>(時価のないもの) 移動平均法による原価法を採用しております。</p> <p>なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。</p> <p>デリバティブ 時価法を採用しております。</p> |

| 項目 | 当第1四半期連結累計期間 (自平成22年2月1日至平成22年4月30日) |
|----|--|
| | <p>たな卸資産 通常の販売目的で保有するたな卸資産 評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。</p> <p>商品及び製品 売価還元法、最終仕入原価法及び個別法を採用しております。</p> <p>原材料 最終仕入原価法を採用しております。</p> <p>仕掛品 個別法を採用しております。</p> <p>貯蔵品 最終仕入原価法を採用しております。</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法（但し、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用しております。 主要な耐用年数は以下のとおりであります。 建物及び構築物 2年～50年 工具、器具及び備品 2年～20年 無形固定資産（リース資産を除く） 自社利用のソフトウェア 社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。 その他 定額法を採用しております。</p> <p>投資その他の資産 長期前払費用 定額法を採用しております。</p> <p>リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成21年1月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金 従業員の賞与の支給に充当するため、支給見込額基準により計上しております。</p> <p>返品調整引当金 出版物の返品による損失に備えるため、返品実績率に基づき計上しております。</p> <p>ポイント引当金 ポイントカード会員に対して発行するお買物券及びポイントの使用に備えるため、当四半期連結会計期間末時点のポイント及びお買物券のうち、将来使用されると見込まれる額を計上しております。</p> |

| 項目 | 当第1四半期連結累計期間 (自平成22年2月1日至平成22年4月30日) |
|------------------------------|--|
| | <p>退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当四半期連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。 なお、会計基準変更時差異については、15年による按分額を費用処理しております。 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定率法によりそれぞれ発生の際連結会計年度から費用処理することとしております。</p> <p>役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、当社の連結子会社は内規に基づく当第1四半期連結会計期間末要支給額の100%を計上しております。</p> <p>(4) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 外貨建金銭債権債務は、四半期連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p> <p>(5) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジを採用しております。 なお、金利スワップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 為替予約 金利スワップ ヘッジ対象 外貨建買掛金及び外貨建予定取引 借入金の利息 ヘッジ方針 外貨建債務に係る為替変動リスクに対してヘッジをしております。 また、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。 ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ手段の契約額等とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、ヘッジ開始時及びその後も継続して、相場変動を完全に相殺するものと想定することができるため、これをもってヘッジの有効性判断に代えております。 金利スワップ取引は特例処理の要件を満たしているため、四半期連結決算日における有効性の評価を省略しております。</p> <p>(6) その他四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。</p> |
| 5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 | 連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。 |
| 6 のれんの償却に関する事項 | のれんは、8年間で均等償却しております。 |
| 7 四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 | 四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は手許現金及び随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。 |

【簡便な会計処理】

| 当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日) | |
|--|---|
| 1 | <p>棚卸資産の評価方法</p> <p>当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、連結子会社の前事業年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。</p> <p>また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。</p> |
| 2 | <p>固定資産の減価償却費の算定方法</p> <p>定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。</p> |

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日)

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

| 当第1四半期連結会計期間末 (平成22年4月30日) | | | | | | | |
|-------------------------------|--|---------------|-----------|--------|--------|-----|--------|
| 1 | 有形固定資産の減価償却累計額 7,586百万円 | | | | | | |
| 2 | <p>コミットメントライン契約</p> <p>当第1四半期連結会計期間末におけるコミットメントライン契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>コミットメントラインの総額</td> <td>22,500百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td>12,100</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td>10,400</td> </tr> </table> | コミットメントラインの総額 | 22,500百万円 | 借入実行残高 | 12,100 | 差引額 | 10,400 |
| コミットメントラインの総額 | 22,500百万円 | | | | | | |
| 借入実行残高 | 12,100 | | | | | | |
| 差引額 | 10,400 | | | | | | |
| 3 | <p>担保資産</p> <p>短期借入金900百万円、長期借入金(1年以内返済予定を含む)1,219百万円の担保に供しているものは、預金253百万円、建物及び構築物805百万円、土地2,098百万円であります。</p> | | | | | | |

(四半期連結損益計算書関係)

| 当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日) | | | | | | | | | |
|---|--|----|----------|-----|-------|----------|-----|--------|-----|
| 1 | <p>販売費及び一般管理費の主なもの</p> <table border="0"> <tr> <td>給料</td> <td>2,262百万円</td> </tr> <tr> <td>賃借料</td> <td>1,255</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>144</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>167</td> </tr> </table> | 給料 | 2,262百万円 | 賃借料 | 1,255 | 賞与引当金繰入額 | 144 | 退職給付費用 | 167 |
| 給料 | 2,262百万円 | | | | | | | | |
| 賃借料 | 1,255 | | | | | | | | |
| 賞与引当金繰入額 | 144 | | | | | | | | |
| 退職給付費用 | 167 | | | | | | | | |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

| 当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日) | |
|--|-----------|
| 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 | |
| 現金及び預金 | 16,866百万円 |
| 預入期間が3か月超の定期預金 | 534 " |
| 現金及び現金同等物 | 16,332百万円 |

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成22年4月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日)

1 発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 当第1四半期 連結会計期間末 |
|---------|-------------------|
| 普通株式(株) | 60,128,085 |

2 自己株式に関する事項

| 株式の種類 | 当第1四半期 連結会計期間末 |
|---------|-------------------|
| 普通株式(株) | 244 |

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

5 株主資本の著しい変動に関する事項

当社は平成22年2月1日に丸善株式会社と株式会社図書館流通センターが経営統合し両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。この結果、当第1四半期連結会計期間末において資本金は3,000百万円、資本剰余金は8,482百万円、利益剰余金は16,519百万円となっております。

(有価証券関係)

当社グループの所有する有価証券は、企業集団の事業の運営において重要なものではありません。

(デリバティブ取引関係)

当社グループの行っておりますデリバティブ取引は、企業集団の事業の運営において重要なものではありません。

(ストック・オプション等関係)

当社グループは、ストック・オプションを発行しておりませんので、該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第1四半期連結会計期間(自平成22年2月1日至平成22年4月30日)

共通支配下の取引等

1 結合当事企業の名称及びその事業の内容、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその当該事業の内容

丸善株式会社 教育・出版流通事業

株式会社図書館流通センター 教育・出版流通事業

(2) 企業結合日

平成22年2月1日

(3) 企業結合の法的形式

株式移転

(4) 結合後企業の名称

C H I グループ株式会社

(5) 取引の目的を含む取引の概要

取引の目的

平成20年の書籍・雑誌を合わせた出版物販売額は前年比3.2%減の2兆177億円と4年連続で前年割れという厳しい状況が続き、また新刊本の返本率が40%台で高止まりするなど、出版流通業界のさまざまな課題に対する解決への取り組みが求められています。

そのようななか、大日本印刷株式会社、丸善株式会社(以下「丸善」といいます。)、株式会社図書館流通センター(以下「TRC」といいます。)及び株式会社ジュンク堂書店の4社は、ともに進める教育・出版流通事業(以下「本件事業」といいます。)において、相互に連携を図りながら、業界全体の課題解決に積極的に取り組み、業界の活性化をリードしていくことに取り組んでまいりました。

そして、この取り組みを推進するためには、TRCが持つIT、物流システム、販売手法に関する高度なノウハウと、丸善が持つブランド力、顧客基盤や店舗事業・出版事業などでの多面に亘る「知」とのかかわりを同一の経営体制のもとで共有・融合して発展させることがより有効であるとの判断に至り、これらによる業績の向上とさらなる日本の知の発展への貢献を目的として、各社の協力関係をさらに強化し、本件事業をより強力に推進するための基盤として、丸善及びTRCが株式移転の方法で共同持株会社を設立することといたしました。

株式移転比率

| 会社名 | 共同持株会社 | 丸善 普通株式 | TRC 普通株式 |
|--------|--------|------------|-------------|
| 株式移転比率 | 1.0 | 0.1 | 67.8 |

| 丸善 第1回A種優先株式 | 丸善 第1回B種優先株式 | 丸善 第1回C種優先株式 | 丸善 第1回D種優先株式 |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 145.0 | 145.0 | 145.0 | 145.0 |

算定方法

丸善及びT R Cは、本株式移転に用いられる株式移転比率の算定にあたって公正性を期すため、丸善は株式会社三井住友銀行（以下「三井住友銀行」といいます。）を、T R Cは株式会社みずほ銀行（以下「みずほ銀行」といいます。）を、本株式移転を含む経営統合のファイナンシャル・アドバイザーとして任命し、それぞれ株式移転比率の算定を依頼いたしました。

三井住友銀行は、丸善については市場株価が存在していることから市場株価法及びディスカунテッド・キャッシュ・フロー法（以下「D C F法」といいます。）により、T R Cについては類似会社比準法及びD C F法により株式移転比率を算定しました。なお、丸善については、第1回A種優先株式、第1回B種優先株式、第1回C種優先株式及び第1回D種優先株式の各要項等（丸善の定款の定めによる優先配当額、普通株式への転換権の発生時期、金銭による取得請求権等）を参考に、普通株式と第1回A種優先株式、第1回B種優先株式、第1回C種優先株式及び第1回D種優先株式の株式移転比率を算定しました。

みずほ銀行は、上場会社である丸善については市場株価が存在していることから市場株価法及びD C F法により、非上場会社であるT R Cについては類似会社比較法及びD C F法により株式移転比率を算定しました。なお、丸善については、市場株価法及びD C F法により算定された株式価値総額（普通株式並びに第1回A種優先株式、第1回B種優先株式、第1回C種優先株式及び第1回D種優先株式の合計）、定款の定めによる第1回A種優先株式、第1回B種優先株式、第1回C種優先株式及び第1回D種優先株式に係る諸条件（残余財産分配、普通株式への転換請求及び強制転換等に関する条項等）及びマーケットデータに基づき、みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社がオプション評価モデルを使用して、普通株式の価値と優先株式の価値の対応関係を分析した結果を参考とし、市場株価方式においては算定した普通株式の価値をもとに優先株式の価値を算定し、D C F方式においては算定した株式価値を普通株式価値と優先株式価値に配分し、これらの分析結果を総合的に勘案し、普通株式並びに第1回A種優先株式、第1回B種優先株式、第1回C種優先株式及び第1回D種優先株式に係る株式移転比率を算定しました。

2 実施した会計処理の概要

本株式移転の会計処理は、「企業結合に係る会計基準」（企業会計審議会 平成15年10月31日）及び「企業結合会計基準及び事業の分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成19年11月15日公表分）に基づき共通支配下の取引として処理しております。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日)

| | 文教市場 販売事業 (百万円) | 店舗・ ネット販 売事業 (百万円) | 図書館 サポート 事業 (百万円) | 出版事業 (百万円) | その他事 業 (百万円) | 計 (百万円) | 消去又は 全社 (百万円) | 連結 (百万円) |
|---------------------------|-----------------------|-----------------------------|----------------------------|---------------|--------------------|------------|---------------------|-------------|
| 売上高 | | | | | | | | |
| (1) 外部顧客に 対する売上高 | 25,388 | 9,302 | 2,735 | 1,171 | 1,274 | 39,873 | | 39,873 |
| (2) セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 47 | 17 | | 287 | 404 | 756 | (756) | |
| 計 | 25,435 | 9,319 | 2,735 | 1,458 | 1,679 | 40,629 | (756) | 39,873 |
| 営業利益又は営業損失() | 2,008 | 61 | 208 | 108 | 135 | 2,397 | (805) | 1,592 |

(注) 1 事業区分は、顧客、販売方法の類似性に基づき区分しております。

2 各事業の主な事業内容

- (1) 文教市場販売事業・・・大学等教育研究機関及び公共図書館に対する書籍・コンテンツ等の商品の提供、並びに内装設備の設計・施工及びその他のサービス提供事業
- (2) 店舗・ネット販売事業・・・店舗における書籍・文具等の販売、及びオンライン書店「ピーケーワン」の運営
- (3) 図書館サポート事業・・・公共図書館、大学図書館を中心とする図書館業務の受託、及び指定管理者制度による図書館の運営
- (4) 出版事業・・・学術専門書、及び児童書並びに図書館向け書籍等の出版業
- (5) その他事業・・・文化系小売業の店舗内装の設計・施工に関する事業、及び倉庫業その他の事業

【所在地別セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日)

当社グループの連結会社は全て本国内所在のため、記載事項はありません。

【海外売上高】

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日)

当社グループの海外売上高は連結売上高の10%未満のため、その記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

| 当第1四半期連結会計期間末 (平成22年4月30日) | |
|-------------------------------|---------|
| 1株当たり純資産額 | 457.44円 |

2 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益

| 当第1四半期連結累計期間 (自平成22年2月1日 至平成22年4月30日) | |
|--|--------|
| 1株当たり四半期純利益 | 13.76円 |
| なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。 | |

(注) 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

| 項目 | 当第1四半期連結累計期間 (自平成22年2月1日 至平成22年4月30日) |
|-------------------------|---|
| 四半期連結損益計算書上の四半期純利益(百万円) | 827 |
| 普通株式に係る四半期純利益(百万円) | 827 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 60,127 |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年 6 月14日

C H I グループ株式会社
取締役会 御中

明治監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 二階堂 博文

業務執行社員 公認会計士 志 磨 純 子

業務執行社員 公認会計士 小 貫 泰 志

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているC H I グループ株式会社の平成22年2月1日から平成23年1月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成22年2月1日から平成22年4月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成22年2月1日から平成22年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、C H I グループ株式会社及び連結子会社の平成22年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。